

“ベクトル”

ジェイコブ・プラッシュ

イントロダクション

科学者や開発者の中で最も重要な働きをした者のひとは——確実にこの国（アメリカ）の科学者や開発者の中では——ユーゴスラビア移民のニコラ・テスラ（*Nikola Tesla*）という人物です。彼の問題はトーマス・エジソンやジョージ・ウェスティングハウスのような同時代の科学者たちより周知されていないことにあります。彼はいくつかの理由により有名ではありません。そのひとつはウェスティングハウスやエジソンのように企業を一度も設立しなかったためであり、ひとつも工業や法人を作らなかったためです。彼は細菌を非常に嫌がるような潔癖症の人で、極度の変わり者でした。しかも彼は科学に関して天才的であったのですが、自分の科学を数学的に説明することができませんでした。

テスラは科学者の中で多くの事柄に関して有名ですが、エジソンは電気の“直流”を好み、テスラは“交流”を好みました。テスラの抱えていた問題は、人々がニューヨークやパリ、ロンドンなどの都市を結ぶ電力システムを設置しようとしたとき、そのふたつのアイデアが競合してしまったことでした。テスラはそれを数値化し、数学的に説明する方法を持ち合わせていませんでした。実際、そのテスラの後になって、ドイツ系ユダヤ人の数学者であり、電気物理学者、政治的哲学者であるシュタインメッツという人が現れ、誰も考えもしなかったことを行いました。彼は円の中に直角三角形を置いたのです。科学者や技師たちはそれまで物理学を説明するのにいつも微積分を使っていました。誰もかつて物理学を説明するのに主要な方法として幾何学を用いようとは考えもしませんでした。このシュタインメッツという人が登場すると幾何学を用いて、円の中に斜辺が回転する直角三角形を置き交流の仕組みを解説したのです。それでどのくらいの周波数があるかが決まりました。したがって、彼は交流電力がどのように作動するかを数学的に計算された状態で解明したのです。それゆえ誰かが現れてその物事を実験した後、その仕組みが説明される必要があったのです。

周波数が無ければどうなってしまうのでしょうか？振動電流が一貫性を持っていなければどうなるのでしょうか？これは実際的な問題です。なぜなら数学的に数値化できないからです。イエスの再臨も同じことです。私たちは何が起こるかを知っていますが、それを数学的に数値化し、再臨がいつの日になるかという段階まで計算することはできません。それが起こ

ることを私たちは知っていますが、再臨の日を定めることは愚かな試みです。多くの人たちがこれまでに誤って計算しようとし、きっとこれからも多くの人々がそう試みることでしょう。終わりの日には再臨の日を計算しようとする多くの人のくだらない試みを私たちは見ることとなります。私たちがただ分かっていることはそれがどのように起こるかということです。それは一貫性が無いために数値化できません。その変数に一貫性は無いのです。

万象が滅ぼされる

『そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます』(2ペテロ 3章 12節)

12節の記述は10節で書かれていることの繰り返しです

『しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。』(2ペテロ 3章 10節)

“万象”——“ストイキオン (*stoicheion*) ” という言葉から、原子量などの周期表に代表される初歩的な化学“化学量論 (*stoichiometry*) ” という言葉が来ています。「万象は焼けてくずれ去り」とあるように明らかにギリシア人たちは元素について知っており——彼らが“アトモス (分割できないもの)” という言葉を持っていたように原子 (アトム) を知っていました。しかし、彼らは元素が分割され得ることを知りませんでした。実際、アインシュタイン以前には誰も元素が分割されること、“ストイキオン”が焼け溶けるといったことを考えもしなかったのです。当時のギリシア人にとってアトムはそれ以上小さくなりえないものでした。彼らは中性子や陽電子、電子、クォークなどの亜原子粒子について知らず、何も分かりませんでした。しかし実際驚くべきことは、2千年前のガリラヤ出身の漁師が元素が分割されると言っただけでなく、生物圏を滅ぼすのに十分な力を発して分割され得ると語ったということなのです。これが実際にギリシア語本文で語られていることです。万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされるのです。

ペテロはどのようにして臨界質量を知ったのでしょうか？またペテロはウラン 238 やプルトニウムが発見される前にこれをどのように理解したのでしょうか。しかしそのことが実際にここで語られているのであり、この節は解釈の幅を大きく与えてはしません。それは“ストイキオン”が火でくずれ去ると非常に直接的に語っているのです。そこから皆さんがどう解釈するか分かりませんが、それがギリシア語で文字通りに語られていることであり、分

割され得ないものが分割され、そのような方法で生物圏が滅ぼされるのです。

しかしこれらのことが必ず起こるために、私たちはその日の来るのを——キリストの再臨を早めなければならないのです。キリストの再臨は不思議な出来事です。父を除いてはキリストの再臨の日を知ることはできません（使徒 1 章 7 節）。イエスが地上におられるときは**彼自身も**再臨の日を知りませんでした。イエスさまが天におられる今は知っていると思いますが、地上におられる間には確実に知りませんでした。なぜでしょうか。それは再臨が変動し得るものだったからです。マルコの福音書にはこうあります

『実が熟すると、人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからです』マルコ 4 章 29 節

“**実が熟すると**”イエスは収穫する者たちを遣わされます。私たちはイエスが戻って来るのを待っているではありません。イエスさま自身が、私たちが整えられるのを待っておられるのです。そこには“**実が熟すると**”と書いてあります。イエスは単に父がお許しになる時に戻って来るだけではなく、実が熟する時、選ばれた者の救われる数が満ちる時に戻って来られるのです。

その時期

これには様々な側面があります。ひとつはルカ 21 章 24 節やローマ 11 章 25 節にあるように“異邦人の時”のことです。非ユダヤ人世界が恵みの救いのもとに来て、完全な収穫の時が到来し、忠実な教会は取り去られます。そして人類の歴史の中での暗い時代、大患難におけるユダヤ人の歴史の暗い時代、つまり終わりの時代に再び神はイスラエルとユダヤ人に目を向けられます。“実が熟すると”ということの意味のひとつは異邦人教会の仕事が終わる時ということです。しかしそれはいつなのでしょう？それは分かりません。私たちはただ“実が熟する”という事を知っています。イエスはある時点で麦と毒麦を分けられます（マタイ 13 章 24 節－30 節、36 節－43 節）。しかしそれは“実が熟する”時なのです。それはひと仕事です。「両方とも育つままにしておきなさい」とイエスは言われました。

教会が間違った方向に行ってしまったひとつの原因はアウグスティヌスです。アウグスティヌスはイエスが“この世界”と言われた“畑”という言葉で、“教会”と置き換えました（マタイ 13 章 38 節）。アウグスティヌスは「見える教会と見えない教会」という考えを持ち出し、教会が信者と未信者とで構成されるものだと言いました。それは救われてはいないが、文化的にまた宗教的な理由で教会に行く人がいるということです。イエスさまはそうは言われませんでした。真実の教会はただ本当に救われた人たちで構成されるべきものです。こ

の世こそが信者と未信者とで構成されるものです。なぜ神はこの世を滅ぼされないのでしょうか？なぜ神は悪に終わりをもたらさないのでしょうか。もし神がそうされたなら、その中にいる人たちさえも終わせなければなりません。神はあわれみと救いの神です。

スコットランドで11人の小学生が殺された時、イギリスである人が私に聞きました（その事件はイギリスでのコロンバイン高校乱射事件のようなものでした）。「あなたの神が愛の神で、あわれみの神で子どもを愛しているのなら、なぜあのデイビッド・ハミルトンという男に子どもを殺させるのを許したのですか？なぜあなたの神は何もしなかったのですか。なぜ悪に終わりをもたらさないのですか？」私はまず最初に、彼が間違った神を非難しているともしました。イエスはサタンがこの世の神であると非常にはっきり告げました。それゆえあなたがたの神がしたこと私の神を非難しないでください。そして説明し続けました。「心配しないでください。人の子はサタンのわざを滅ぼすために来ました。私の神はこの世の神を取り除くためにやって来ます。私の神は悪を滅ぼされるのです。でも神が今日それを行わないのはなぜでしょう。もし今日それをなされるのなら神はあなたをも滅ぼさなければなりません。しかし神は悔い改め、新生する機会を私たちに与えています。神は福音を信じ、救われるチャンスをおあなたに与えているのです」それゆえイエスは今、悪に終わりをもたらさないのです。神は個人的な悪を終わらせることはありますが、“実が熟する”時、すなわち救われるべき者の数が満たされるとき、イエスは完全な意味で悪に終わりをもたらされます。それはつまり変数なのです。

再臨が変動する可能性があるもうひとつの理由は“ソドムエフェクト”と呼べるもののためです。そこからユダヤ人は“ミンヤン (*minyán*) ”という教えを得ました——つまり十人の中にひとりの義人が見つかるのでしょうか、というものです。アブラハムはロトが住むソドムのために嘆願しました。「五十人の正しい者がいたならその町を滅ぼされますか」神は「いいえ」と言いました。「四十人はどうですか」「そうしまい」「三十人ならどうでしょう」「そうしまい」（創世記 18 章 24 節–33 節）終わりの日に同じことが起こります。忠実な残りの者、正しい者でありイエスを本当に愛する者はもはやこの世を保つことができなくなるほど少なくなります。神はただ自分の者のために介入され、彼らを救われ、他の者に敵対されます。

それゆえある面では不正、邪悪がキリストの再臨を早めます。もうひとつの面では義がキリストの再臨を遅らせるのです。

福音派と称する人たちの中でも、預言に敵対し、終わりの時代の預言を信じる信者たちを馬鹿にしてこう言う人たちがいます。「あなたたちは中東やイスラエルに関することを教えて、自分たちで預言を成就させているじゃないか。そのことが起こってほしいのだろう。

イエスが戻って来るためにあなたは災害を**望んでいる**んだ。私たちがクリスチャンなら地を保つべきであり、それを滅ぼすべきではないじゃないか」実際、預言をないがしろにすることにより、**彼らこそ**がその破滅を悪化させ、それを引き起こしているのです。

一方で義を通して、人が実際に救われることを通して、イエスに信仰を持つことを通して私たちは主が来るのを遅らせることができます。しかしその同じプロセスは不思議にもイエスの到来を早めるのです。

食べることと呼吸とを考えてみてください。何かが酸化されるとそれは減少しています。もしあなたが死にたいと思われるなら息をしてください。酸素はあなたを死に至らせる組織学的な毒素です。もし死にたいと思われるなら食べてください。しかし、食物を炭素やエネルギーに変換するためには酸素を必要とします。なので何かを食べると死に至るし、息をしても死に至るのです。すぐに死にたいと思うなら、何も食べずに息もしないでください。これは大変なことです。それをしてもしなくても私たちは運命づけられています。それがこの墮落した世界の状態です。究極的に罪のため、またこの世がサタンの領域であるために現在の人間と人の住む地は何をしても破滅を招くのです。この世はサタンの領域の内にあります。死にたい人は息をしてください。もっと早く死にたいなら息を止めてください。死にたいなら食べてください。もっと早く死にたいなら何も食べないでくださいということになります。もちろん、それはイエスがこの状況に介入し、この方程式に優位な因数とならなければどちらを選んでも勝ち目が無い“ルーズ・ルーズ（どちらも負ける）”の状況なのです。

聖書的な預言

私たちはこれまで何度も預言が実際どのように成就するか、また神学校で広く教えられているものが聖書の定義する預言といかに異なっているかを説明してきました。神学校では過去主義、歴史主義、激励主義、未来主義のどれかが教えられています。

過去主義者は預言がすでに起こったもので、未来の意味は何も無いと語り、黙示録やオリーブ山の訓戒は紀元 70 年に起こったのであって、未来の意味は無いから心配するなど教えています。実際、過去主義者にも 2 種類あります。それは神学的にリベラルで、何も信じず救われていないリベラルと、クリスチャンと言いながらイエスとダニエルが預言した紀元 70 年の神殿崩壊ですべてが成就したと言う人たちです。

紀元 70 年に起こった出来事は預言を成就し、終わりの予型であったことは確実です。それらは部分的な成就でした。しかし実際問題としてイエスは紀元 70 年に羊と山羊を分けませ

んでした（マタイ 25 章 31 節－46 節）。イエスはまた大患難より悪いことは何もなかったし、またこれからも起こり得ないと言われました。確実な真実として紀元 70 年からユダヤ人、また教会の双方に紀元 70 年より悲惨なことが起こってきました。第二世紀のバルコクバの乱でユダヤ人に起こったことは、第一世紀の 70 年に起こったことより悲惨でした。ここ過去 75 年間で歴史上のどの時代よりも多くのクリスチャンが殺されました。今この時であっても、世界中の新生したクリスチャンの 10 人にひとりには中国や、平和と寛容の宗教と呼ばれるイスラム教国で迫害されています。（イスラム教国が平和で寛容であるというのは政治家の誰も証明できないひとつの嘘です。アメリカやイギリス、ヨーロッパまたはイスラエルがイスラム教徒に与えている権利を実際に与えられるイスラム教国はひとつとしてありません）紀元 70 年からもっと悲惨なことがユダヤ人と教会の両方に起こりました。過去主義は間違っているのです。

しかし過去主義であってもきちんと機能し、聖書的な種類のものがあります。オリーブ山の訓戒の中でイエスはハヌカについて言及し、ダニエルの語った荒らす忌むべき者について語られました（マタイ 24 章 15 節）。それはダニエルが預言し、その 160 年前に成就しました。イエスはヨハネ 10 章でハヌカを祝われていたので、過去の出来事を知っていました。それは新約聖書で「宮きよめ（奉献）の祭り」と呼ばれるものです。しかしイエスさまが将来に起こると言われたためにそれは将来に起こるはずの事柄です。それは二重の意味を帯びています。言いかえるならば、イエスはすでに起こった出来事をもって、それが再び起こると言われたのです。それは二重の言及です。このような種の過去主義は真実です。そうです、それは過去に起こりました。しかし将来の意味もあるのです。

そして歴史主義というものがあります。ルターを除いてプロテスタント改革者たちは歴史主義を好んでいました。そのような人たちは特定の反キリストや特定の状況、終わりの時代の出来事に目を向けるなど言います。これらのものは歴史を通しての継続的な真理だということです。たとえば、すべての教皇が反キリストだと言います。時代の終わりの特定の出来事を見てはいけないと言われます。もう一度言いますが、彼らも部分的に正しいのです。

イエスの言われた荒らす憎むべき者の例に戻ってみましょう。そうです、その出来事は当時の 160 年前に起こりました。しかし紀元 70 年に至聖所が立っていた場所でローマ人が異教の旗を立て、崇拜し始めたことをヨセフスは記録しています。第二世紀にハドリアヌス帝は（エルサレムを改名し）アエリナ・カピトリーナという町の神殿の丘でジュピター（ローマ神話の神）の神殿を建てました。それがもうひとつの荒らす憎むべきものです。第五世紀に背教者ユリアヌス——コンスタンティヌス帝の甥は神殿を再建しようとしていました。それはひとつの石も積まれたまま残されることはないというイエスの言葉を破棄するため

した。しかしそこで不審火がいくつも起こったのです。これがもうひとつの荒らす憎むべきものです。

今日の荒らす憎むべきものはオマールモスクとして知られる岩のドームです。そこにはコーランから「神には子がない—アッラーは生んだこともなければ、生まれたこともない」とあります。第一ヨハネでは御父と御子の関係を否定することが反キリストの確実なしるしだと言われています(1ヨハネ2章22節)。イスラムは反キリストの宗教です。誰でもイスラエルに行き、オマールモスクを見た人なら、その石の外壁にサタンの顔のようなものがあることを見たことでしょう。そのような物が存在するのには意味があり、コーランからの引用がそのすぐ上にあります。現在、神殿の丘には荒らす憎むべきものがあるのです。またもうひとつのものが来ようとしています。ある意味において歴史主義は真実です。

そして激励主義というものがあります。これがルター派の選択する見解です。ルター派の神学校は激励主義を好みます。ルターは黙示録を理解できなかったために、黙示録を好みませんでした。そして実質的に黙示録を正典ではないと退け、ヤコブの手紙も理解できなかったためにそれを退けました。それは迫害の時代に教会を励ますために書かれた詩でしかないと言い、将来の意味は無いと彼らは言います。事実、ヨハネはドミティアヌス帝の迫害の時代にパトモス島から黙示録を書きました。黙示録はその目的のためにも与えられました。その考え方にひとつの真理がありますが、**全体的な**真理ではありません。

そして未来主義があります。それは黙示録やマタイ24章、25章、ルカ21章、マルコ13章、ゼカリヤ書やエゼキエル書などの出来事は、終わりの時代の意味を持っていると信じるものです。

どの神学校に属しているかによって教会はこの4つのうちひとつを教えます。もし超教派の神学校に通うなら、この4つすべてが教えられ、神学生に自分で選ばせます。聖書的にこの4つすべてが同時に真実です。それらは相互排他的ではありません。教会はヘブライ的な世界観、聖書を書いた第一世紀のユダヤ人の思考をヘレニズム的な思考、つまりこの4つのうちただひとつだけを真実だとするギリシア的思考と取り替えてしまいました。実際的にこの4つすべてが同時に真実です。紀元70世紀の出来事は起こるべきことを予兆し、それを成就しましたが完全な意味では成就していません。歴史上では**多くの**反キリストがいます。**多くの**荒らす忌むべき者がいるのです。

激励主義は真実です。黙示録は迫害の時代に私たちに励ますために与えられました。歴史主義は真実ですが、これらのことは未来の意味をも持っているのです。

さまざまな世界観

まずギリシア的な世界観があります。ギリシア的世界観はアルファとオメガから生じました。それは直線的です。すべての事柄は“エスカトン (*eschaton* =クライマックス) ”、つまり“パロウシア (*parousia* =再臨) ”、イエスの再臨に向かって進んでいきます。これが西洋世界の見方です。

東洋世界は違います。東洋世界は歴史を循環するものと考えます。暗やみがあり、光があり、また暗やみがあります。春から夏に変わり、夏から秋になります。そしてそのサイクルはまた繰り返すのです。東洋の世界観は円状のものです。輪廻転生、シャーマニズム、ヒンドゥー教—これらを信じる人たちは物事が循環すると言います。古代のカナン人は毎年春ごとにバアルが死からよみがえると信じていました。

西洋的な世界観—ヘレニズム的な世界観があれば、東洋的な世界観もあります。しかし第三の世界観もあります。それは聖書的な世界観で—古代ヘブル人と新約聖書のユダヤ人著者たちから来たみことばの世界観です。それは西洋的でも、東洋的でもないものです。ではそれは実際にどのようなものなのでしょう。

中東の地図を考えてみてください。そこで三つの大陸ヨーロッパ、アフリカ、アジアがつながっています。その中東（レバント地方）の中央にあるのがイスラエルです。神はアブラハムを召して、聖書にあるイスラエルに導き入れられました。アブラハムを通してすべての部族、地のすべての人が祝福を受けます（創世記 12 章 31 節）。福音はアブラハムの種から出るものです。救いもアブラハムの種を通して来ます。聖書はアブラハム、イサク、ヤコブの子孫たちで成っています。そのようにイエスが来られ、救いをもたらし、イスラエルから福音を広められました。歴史記録によると東はインドまで聖トマスが福音を伝え、また聖マタイがエチオピアや黒人のいるアフリカまで福音を広めたと言われています。そして北と西にはパウロ、バルナバが広め、ヨーロッパまで至りました。福音はすべての方向に広がりました。それは神がヘブル人を世界の中心、中心の中心に置いたからです。そのために福音がすべての方向に広がりました。それゆえイスラエルは東でも西でもないのです。

今日のイスラエルを訪れた人ならそこが不思議な場所だと思うでしょう。イスラエルは地理的に東洋に属しますが、文化的に東洋的でも西洋的でもありません。それは日本やシンガポールのようなものです。それらの国は東洋ですが、西洋化された国です。私たちはシンガポールを実際に西洋国家と呼ぶことはできません。それは東洋の国だからです。しかし、その経済、文化、社会構造が西洋化されているために東洋の国とも呼ぶことができます。

せん。それは東洋であり、西洋です。東洋に位置していますが、東洋的であると同時に西洋的です。イスラエルもそのようなものです。

エルサレムのダマスカス門の外に立ってみると、聖書からそのまま出て来たような光景が目に入ります。そこにはラクダやロバを連れた人々や東洋の商人たちがいて、香水や香料、薬味、東洋の香りが漂っています。そこには盲目の物乞い、宗教的な偽善者たちがいて、東洋オリエント世界の多くを目にします。しかし1マイルも行かないうちにオフィス街やガラスやスチールで出来ている高層アパートがあり、もし電光板に気付かなかったならば、シカゴやオーストラリアのメルボルンなどのショッピングモールにいると勘違いしてしまうでしょう。実際、そこにはヘブライ語と英語、またロシア語やアラビア語で書かれた電光板までありますが、みな英語を喋ります。東洋であり、西洋であるということはどのようにしたら可能なのでしょうか。ともあれ、イスラエルはいつでもそのような土地でした。

したがって歴史を循環するものとする東洋的世界観や、また歴史を直線的に見るギリシア的世界観よりも、私たちはヘブライ的であり聖書的世界観を理解しましょう。アルファとオメガを持つ西洋的世界観にとってオメガはエスカトンであり、パロウシアです。しかしながらこれには違う点があります。直線的な思考や循環的な思考の代わりに全く違ったものがあります。預言は西洋世界であるようにただ予告と成就とでなるものではありません。預言はパターンです。この世には**多くの**反キリスト、また**多くの**荒らす忌むべきものがあり—そのひとつひとつが最終的なものを描写しています。それは**反復する**世界観、預言が複数の成就を持っているということです。

多くの反キリストがいます。ヘロデ大王は反キリスト、ヘロデ・アンティパスは反キリストであり、皇帝アウグストは反キリストです。歴史上でスターリンは反キリストであり、アドルフ・ヒトラー、ナポレオンは反キリストです。教皇は反キリストです—**多くの**反キリストがいるのです。アルファからオメガまで行くようにそこには線的な前進がありますが、それは直線的ではありません。それは東洋と西洋の混合であり、線的なものと循環するものの混合、**反復する**世界観です。

ベクトルの構造

したがってそこにはアルファとオメガ、キリストの再臨があり、聖書の預言は反復的に成り立っています。預言は反復するものです。たとえば方向（何かが走る軌道）と速度（または距離、加速度）の関係を表すものが“ベクトル”です。すべての科学者、エンジニア、数学者が確実に知っているようにそれはベクトルです。ベクトルは大学や専門学校で教えられるものです。

数学や物理学、工学を学ぶ人は、例外なく最初の年にベクトルを学びます。弾道学はベクトルです。幾何学の専門家でバーコフという数学者は、ポケットビリヤードとプールをベクトルを持って説明しました。ロケット科学はベクトルです。天文学、天体物理学はベクトルです。何であれ運動と方向、速度などと関係しているものはすべてベクトルなのです。

ベクトルには秒速があります。それは何かがある特定の方向に一秒で何メートルも進むというものです。活性化エネルギーを加えると毎秒速度を加速することになります。そうするとそのプロセスはどんどん速く進行します。それはロケットのようなもので、より多くの燃料をより高い温度で燃やすようなものです。活性化エネルギーを加えると速度が上がるだけでなく、加速度も増えるのです。言い換えると、最終点に近づくとその速度も速くなるということです。

聖書的な預言を理解しましょう。キリストの最初の到来は第二の到来と似ています。聖書にはキリストの最初の到来に関しての預言が何百とあります。これらのものの大半は 35 年間のうちに成就されました。アブラハムからイエスの期間を考えるとそこには 2 千年の期間があります。神はイスラエルをキリストの初臨のために備えておられました。それはキリストの再臨に教会が備えられているのと同じことです。イエスの時代、2 千年前、使徒の働きや使徒のことを考えてみると、神はそれまで 2 千年間働いていたことが分かります。キリストが最初に来られた時、ユダヤ人は現在と同じようにアブラハムまでのことを考えていました。私たちは通常そのようには考えませんが、聖書と歴史はそう語っているのです。したがってその 2 千年間の終わりの時代に預言の大半が 35 年間で成就されました——それは一世代より短い期間です。

そして預言の大半が（イエスの奉仕期間を含む）**4 年間**のうちに成就されました。したがって 35 年の期間を通して実現した預言の大半が、バプテスマのヨハネの奉仕からペンテコステの日までの 4 年間で成就したということなのです。そしてその預言の大半が **6 日半の間**に成就をみました。預言の大半は一週間より短い期間のうちに成就したのです。

預言の大部分は 35 年間のうちに成就しましたが、その中の大部分は 4 年間で成就し、その多くが一週間もない期間で成就したのです。私たちが目標に近づくとつれて、速度が増し、その壁に近づくとつれ推進力を増すのです。

これが私たちが数学的に計算でき、表にできる手段の限界です。私たちは数学を使ってベクトルの動き方を説明できますが、定量化し“衝突”の時、私たちが実際にオメガに達する時を特定することはできません。さまざまな方法でその終わりの時を特定化しようと試みる

人がいますが、サイクルの多様性のためにそれは上手くいくことがありません。パターンがそこにはありますが、成就する事柄の間の期間には多様性があるのです。

私たちの時代のベクトル

イエスが戻られる前に特定のことが起こる必要があります、多くのものがもうすでに起こっています。私たちがこうして話している間も多くのものが現実となっています。イスラエルは 1948 年に国家として再建され、1967 年にはエルサレムに戻り、エルサレムが統合された 1960 年代に多くのユダヤ人がキリストに立ち返りました。また現代、地上の国々がますますイスラエルに敵対してきています。イスラエルは国々のための神の日時計です。聖書はどう語っているのでしょうか。国々はキリストの再臨を妨げようとエルサレムに向かって来ます。それはサタンの手によるものです。その試みは上手くいきませんが、これらのことはますます実現しています。どんなに早く実現するかをよく見ていてください。

強制収容所から出て無一文だったユダヤ人たちは三年後に古代の故郷に戻っていました。これはただイスラエルの例です。欧州連合がいかに早く衰退しているかを見てください。またアメリカが自分たちの政府、自分たちの大統領によって崩壊しているのを見てください。政府は自分たちの国を滅ぼしたがっているようです。3 年前、アメリカの国内負債は 1600 億ドルであり、3 年後には 1 兆 3 千億ドルとなりました。それはわざと車を事故に巻き込むほどおかしなことです。私たちは最近ちょうど日本にいました。日本は最近まで世界第二の経済力を持ち、アジアで最大の経済でした。今、中国が日本を追い抜き、その国債は国内総生産の 2 倍となっています。それはどのように起こったのでしょうか。とても迅速に起こりました。

一方教会を見てください。もし、25 年前に入れ墨をしたならず者、刑事告訴された同性愛の小児愛者がいてテレビの中で老女の顔を蹴り、そのようなものをピーター・ワグナーやリック・ジョイナーのような主要なキリスト教指導者たちがリバイバルと呼んでいるなら、それはただ狂っているようにしか見えなかったことでしょう。その同じ男は妻を捨て、別の女と駆け落ちし、それでも奉仕に戻っています。そしてその駆け落ちした女性は今預言をしているというのです。これは私にとってただ狂ったことのように見えたでしょう。(著者はここで、フロリダ・レイクランドの失敗に終わった偽リバイバル指導者のトッド・ベントリー (*Todd Bentley*) について語っています)

もし 20 年前に『シャック (*Shack* = 小屋)』というような本、イエスが罪のために死なず、罪を贖うために御子を渡された神が存在しないと教える本を人々が読んでいたとしたなら、それはただ狂ったことだったでしょう。福音を根本的に否定し、聖書の定義によって明ら

かにクリスチャンでない者による本を新生したクリスチャンが読み、福音派と主張している人々の中でベストセラーになっていることは信じ難いことです。そのペース、その崩壊が起こっている比率を見てください—教会が背教に向かって加速している比率を見てください。有名な人物でも金銭問題や性的不品行に陥り、奉仕に戻ったテッド・ハガード (*Ted Haggard*) やジム・バッカー (*Jim Bakker*) のような人たちがいます。そのようなことは今大した意味を成していません。私たちはそのようなことが一世代前までは考えられなかったことを忘れてしまっているのです。

ここ 30 年間での離婚率の変化を見てみましょう。それは救われているクリスチャンの間ではごく少数でした。しかしそれは現代の世俗世界と自称福音派の中で変わらないくらい高くなっています。たった 30 年間のうちにです。これらのことが起こっている比率は私たちがオメガにますます近くなり、その速度を増していることを示しています。

否定的な面では、(もちろん世は言うまでもなく) そのような教会内の背教と不品行が“ソドムエフェクト”を作り出しています。もし現在のような有様で続いていくなれば、主が”ロトとその家族”を連れ出すために介入しない限り何もすることはできません。それだけです。これは私たちが防空ごう的意識(働きを止め、身を隠すような態度)を持つべきだとか、伝道を止めるべきだと言いたいものではありません。それとは反対です。私たちは人々に悔い改め、イエスが来るということをより熱心に警告すべきなのです。私たちは主が箱舟に入れと言われるまで防空ごう的意識を持つべきではありません。一方で“ソドムエフェクト”は確実に起こっているのです。

裁きに渡される

私たちは“ソドムエフェクト”を止められません。私たちは背教した教会に警告を出せはしません。エキュメニカル運動に陥った教会、またパーパス・ドリブン(人生を導く目的)に陥った教会などにです。ですがそれを止めることはできません。私たちが覚えておかなければならないのは、神がそれを裁きに引き渡されているということです。第二テサロニケ 2 章には主が偽りを信じるため惑わしを送られるとあります。これらの多くの人たちは偽りの霊に渡されています。

デイビッド・リスター (*David Lister* モリエルミニストリーズの編集長) と私はこれまで福音を伝え、伝道してきたさまざまな人たちについて多く話をしてきました。デイビッドはある例をいつも使います、「人に何かを読んでみてと言っても、その人が盲目ならどうにもならない」というものです。それが点字でない限り読めません。私は目が見えないユダヤ人たちを知っています。ただ盲目というのではなく**自分から**盲目になっているのです。

そのために神が彼らを盲目にさせます。「第二神殿が崩壊する前にメシアが来て、死ななければならなかったことが分からないのですか？」私はかつてニューヨークにいる著名なラビと議論しました。その人はダニエル 9 章を否定できませんでした。彼はそこで「ダニエル書より優れた情報源を見せてください」と言ったのです！彼はただ盲目だけでなく、**自分から**盲目になっていました。私はカトリック教徒たちに見せました。「ほら、マリアは罪から救われる必要があると言いましたよ（ルカ 1 章 47 節）。マリアも罪を犯したということが分からないのですか？」モルモン教徒はアダムを神ではないと現在信じていますが、ブリガム・ヤングは確かにアダムは神であると言ったのです。「自分たちの指導者、自分たちの教師があなたたちの信じていることと矛盾しているのが分からないのですか」

人が自分から盲目になるとき、神は裁きとしてその人たちを盲目に引き渡されます。彼らは盲目にならざるを得ません——私たちは**みな**盲目に生まれます。乳児は生物学的に盲目に生まれます。罪のため、私たちは墮落した形で生まれます。私たちは**みな**盲目なのです。人がイエスを信じるとその盲目であった目が開かれます。見えるようになるのです。しかしそれは**意図的ではない**盲目の場合です。人が**自分から**盲目に陥った場合はどうなのでしょう？神は裁きとして彼らを盲目にされます。

イエスの到来を早める

私たちは“ソドムエフェクト”を止めることはできません。私たちは人に警告を出せますが、それだけです。私たちができることはペテロが語ったこと、主の到来を早めることです（2 ペテロ 3 章 12 節）。それが実の熟すときです（マルコ 4 章 28 節）。私たちは主の到来を早めることができます。実際、私たちはイエスが早く戻って来るようにすることができるのです。

これに対して、また過激でおかしな人たちはこう言います。「あなたは世の終わりの預言を自分で成就し、それらが成就するということによってそれを起こそうとしているじゃないか。そして災害を防がないばかりか、それを助長しているじゃないか」真実はこの反対です。もし人がこれらのことを信じ、悔い改め、預言を認めるならそれが唯一主を遅らせることなのです。避けることの出来ない崩壊を遅らせることは**それだけしか**ありません。しかし“ソドムエフェクト”はその破滅を早めています。それでは**私たちが**早めることの出来るものとは何なのでしょう？

『このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとなれば、あなたがたは、どれほど聖い生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょうか。そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。そ

の日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。』
(2 ペテロ 3 章 11 節-12 節)

私たちが早めることの出来るものは私たちの救いです。ロトとその家族が炎と硫黄をソドムの町に降らせたのではありません。それを引き起こしたのはソドムとゴモラの人々です。人々が悔い改めたなら、裁きを遅らせることが出来たでしょう。裁きはロトのためではなく—彼は救い出されたのです。私はこの地球を襲う破滅を楽しみにしてはいません。私の望みとしていることはそこから救われること、またその裁きが来る前に忠実な教会が救われるのを見ることです。

最終的な引き金

ソドムとゴモラの裁きを引き起こした最終的な引き金とは何だったでしょう？過激な同性愛と性的な錯誤です。不自然であり、曲がったものだったものが社会的、文化的、またはおそらく宗教的な通常となっていました。それは非生殖的であり、その他の霊長類には起こらないことで医学的に危険なこと、このようなことが通常となってしまう。例えば、サンフランシスコではそれが通常となっています。

当然のことながら、もし私たちがそのようなことを言い、人に警告を与えるなら、「同性愛恐怖症や頑固なやつ、悪人」と呼ばれるでしょう。人々はロトに敵対したように、忠実なクリスチャンに敵対するのです。しかし本当の問題はトニー・カンポロ (*Tony Campolo*) やブライアン・マクラレン (*Brian McLaren*) などがしているように同性愛に妥協している人たちなのです。リック・ウォレンのように当初同性婚に反対しながらも、“プロポジション 8 (米カリフォルニアで結婚を男女間に限定する州法)”に関する立場を変え、CNN に出演し続けている人物もいます。このような人たちはこれらのことに同調するのです。背教した教会はそれについて行き、より凶暴性を増し、それを受け入れない者に対して激しく追い迫るようになります。

そのような人たちは政府の中でより重要な地位に就くようになります。人々は政治的な解決法を探そうとしますが、そのようなことは無駄です。有権者がプロポジション 8 に賛成の票を投じたにもかかわらずそれを禁止にしたのはどの裁判官だったでしょう。彼はただ署名一つでそれを違法としたのです。その裁判官は同性愛者でした。誰がその職に彼を推薦したのでしょうか？ロナルド・レーガンです。誰がその職にロナルド・レーガンを推薦したのでしょうか？ジョージ・ブッシュです (このような人こそが、多くのクリスチャンが自分たちの側にいると思っている共和党員たちです)。政治的な贖いはあり得ないし、政治的な救いも起こり得ません。そしてソドムがそうであったように、状況はさらに悪くなりま

す。しかしソドムにも救いがあったように救出がなされます。

それはさらに近く、さらに早さを増していきます。

同性愛者やレズビアンが統計的に寿命が短いという事実を差し置いて、彼らには養子することが許可されています。一般的に誰かが子どもを養子にしたいなら、健康状態を含むさまざまなことで審査を受けます。彼らは子どもをもう再び孤児にしたくないからです。ですがこのような質問は同性愛者たちには尋ねることができないのです。

人がカリフォルニアで医療保険を購入する場合、同性愛者のロビー団体のために HIV 陽性か陰性かは聞かれません。それゆえ HIV 陽性でも陰性でもない人は高い保険料を払わなければならないのです。それは一般の人に対して、同性愛者やレズビアンをえこひいきしたひとつの差別です。その状況は悪化していくことでしょう。人々がそれを止めようとしても問題ではありません。**それこそが神の裁きを早めているのです。**これらのことのために神の御怒りが下ります。そのような環境で赤ん坊を育てることは神の裁きを早めているのです。

現代

一方で、私たちはもうひとつのこと、神の救出を早めようとしています。これは活性化エネルギーです。考えてみてください。もし私たちが古い蒸気機関車を早く走らせたいなら、より多くの量の石炭を早く入れることが必要です。福音を宣言すること、また主の再臨を宣言するというイエスのみわざに私たちがより忠実であればあるほど、主の再臨は早まります。それが「実が熟すとき」なのです。

私たちはイエスの最初の到来の時と同じように、多くの物事が非常に短い期間で起こることを見るようになります。もちろんそのひとつはダニエル 10 章です。イランは聖書預言の中でヨーロッパと台頭する形で現れ、イスラエルの脅威となります。ダニエル 10 章は今起こっており、それは迅速に成就します。エゼキエル 38 章・39 章で国々は相集いイスラエルに敵対し、トルコもその中にいます。トルコはいつでも西洋の友好国で、西洋化された国でありイスラエルの味方でした。ですが今の状況を見てください。状況がいかに早く反転し、それがいかに早く起こっているかを見てください。ブッシュとオバマがいかにアメリカを素早く後退させたかを見てください。当然ながら、列王記や歴代誌にあるように国々はそれに相応しい指導者を得ます。

テレビ伝道者たちがいかに早く教会の信頼性を損なわせているか見てください。私たちの

信頼性も素早く崩してしまいます。人々が救われることはただの詐欺の手口だと考えられている今、人に伝道するのがとても難しくなっています。それらのことは本当に素早く起こり、これからまた今より迅速に起こっていきます。日毎に私たちはイエスの再臨に近づいています。日毎に私たちは主の到来に近づいていて、より早い速度でそこへ向かっています。

私たちはそれに関して何ができるのでしょうか？皮肉にもそれは同じ解決法です。神の裁きを遅らせたいなら人々を悔い改めへ、救いへ導いてください。キリストの再臨を早めたいならば伝道をして人を悔い改めへ、また救いへ導いてください。それは大変なことです。もし早く死にたいならば、息を止めてください。イエスに早く戻って来てほしいのですか。伝道をして弟子を作ってください。神の御怒りが来るのを遅らせたいならば伝道をして弟子を作ってください。

これらのことはある点までしか理解できず、説明することができません。テスラ氏は交流をどう説明していいか知りませんでした。彼はただそれが真実で、上手くいくということだけを知っていました。終わりの時代の預言について今説明したくらいにしか私には説明の仕方が分かりません。しかし私が**知っている**ことはそれが真実で、そうなるということだけです。これがキリストの最初の到来で起こったことであり、再び主が来られるときにも起こるようになることです。

神の祝福がありますように。††